麻酔科・疼痛制御科プログラム

【研修目標（内容）・到達目標】

卒後３年目以降の麻酔科研修(レジデントA, B, C)では、厚生労働省認可の麻酔科標榜医及び日本麻酔科学会認定の麻酔科認定医、さらには日本麻酔科学会の麻酔科専門医研修プログラムに沿って麻酔科専門医の資格の取得を目指します。

麻酔科専門医研修プログラムは兵庫医科大学病院を責任基幹施設とし、基幹研修施設(宝塚市立病院，明和病院)および関連施設(三田市民病院，兵庫医科大学ささやま医療センター，兵庫県立こども病院，六甲アイランド甲南病院、近畿中央病院、明石市立市民病院、神戸中央病院)の病院群が協力して、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を持ち、協調性と意欲に富んだ麻酔科専門医を育みます。

心臓麻酔、産科麻酔、小児麻酔などの特殊麻酔から、集中治療、緩和ケアまで、幅広い研修が可能です。

日本麻酔科学会・麻酔科専門医研修プログラム
http://www.anesth.or.jp/student/kensyu-program-list.html

研修期間

麻酔科標榜医取得まで	レジデントA,B
専門医取得まで	レジデントC以降

研修内容

① 麻酔科学全般、周術期管理
② 緩和ケア及び疼痛管理
③ 重症患者の集中治療

研修進度とレジデントの希望に沿って緩和医療・ペインクリニック科（ペインクリニック部)、ICU、あるいは協力病院で研修します。

大学院への入学

希望者に広く門戸を開いています。４年間の間に臨床麻酔の研鑽と、当科あるいは基礎医学講座と共同で麻酔科学に関連したテーマで研究を行う事もできます。（１年間は麻酔業務に従事）

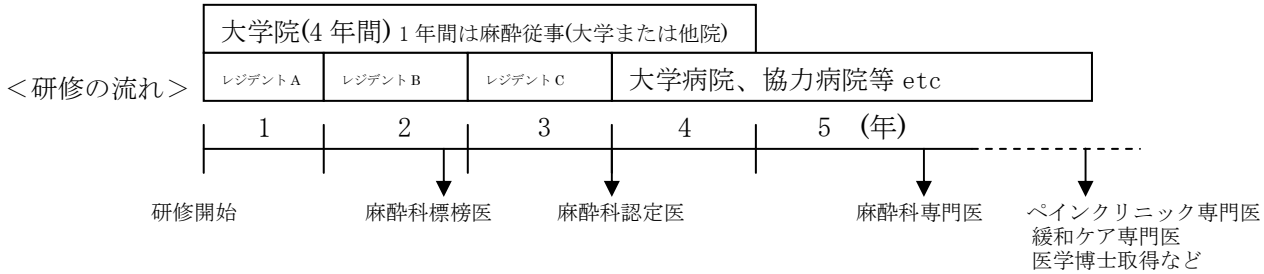
大学院の夜間コースを選択すれば、レジデントまたは病院助教として院内勤務する事ができます。(週４日の臨床業務と週１日の院外研修)

＜備考＞　取得資格

●**麻酔科標榜医**：麻酔指導病院で２年間の麻酔科研修(初期研修での麻酔科ローテイション期間も含む)を行えば取得できます。

●**麻酔科認定医**：麻酔科標榜医の資格を有し、日本麻酔科学会に３年間所属すれば取得できます。

●**麻酔科専門医**：認定医として２年以上麻酔関連業務に従事し、学会参加等の規定単位を取得している場合、日本麻酔科学会の行う筆記、口頭、及び実技試験に合格すると取得できます。



【レジデント A（卒後３年目）カリキュラム】

さまざまな臨床麻酔を経験する事により、全身管理の技術と知識を深めると共に麻酔の基礎知識を習得します。麻酔科専門医獲得の目安にした目標症例数(重複あり)は以下です。不足した症例は協力病院などで研修を行います。

全身麻酔　吸入麻酔	150 例
全身麻酔　完全静脈内麻酔	50 例
脊椎クモ膜下麻酔	30 例
硬膜外麻酔	20 例
超音波ガイド下末梢神経ブロック	20 例
開腹外科手術	20 例
胸部外科手術	30 例
心臓血管外科手術（人工心肺使用）	30 例
小児外科手術	40 例
帝王切開術	20 例

【レジデント A（卒後３年目）の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、ICU、救命救急センターのいずれかで、希望により３ヶ月間研修を行うことができます。

【レジデント B(卒後４年目)カリキュラム】

麻酔科を標榜または麻酔科専門医を目指す医師の研修コースであり、レジデント A に続きレジデント B で上記の症例を１年間経験すると麻酔科標榜医の資格が取得できます。緊急症例とハイリスク症例を指導のもと経験します。この時点で経食道心エコーの認定試験である JB-POT を取得するものも多数います。

さらに麻酔科専門医に加えて、ペインクリニックなどサブスペシャリティー確立に向けて、慢性疼痛と緩和ケアの研修を行います（兵庫医科大学ペインクリニック部)。

AIP 研修プログラム（Anesthesia, Intensive Care, Pain Clinic)(レジデント A, B 相当)
手術麻酔による全身管理（１年間)、集中治療（６ヶ月)、ペインクリニック（６ヶ月）の基礎を 2 年間で習得できます。「将来他診療科に進みたいが、全身管理や疼痛管理を学んでおきたい」という方にも門戸を開いています。

【レジデントC(卒後5年目)カリキュラム】

上級医の指導のもと手術室運営のプランや麻酔計画立案を行います。すべての分野の麻酔を経験したり、他診療科と症例検討を行ったりします。

レジデントCでは、短期の海外病院研修(インディアナ大学)や国際学会参加(米国麻酔科学会ASA、IARS、ESA、韓国産科麻酔学会)、発表などを経験していただきます。経食道心エコーの米国での認定試験であるPTEeXAM取得を目指すこともできます。

希望により、大阪府立母子保健総合医療センター、国立循環器病センター、社会保険紀南病院、長野県立こども病院、等の他の施設で、より専門的な麻酔・集中治療の研修を行っています。

【カンファレンス・症例検討会・セミナー】

月～金　7:50～ 朝の勉強会
　　レジデントは原則2回程度/月に担当
8:00～　術前症例検討会
土（第１，３，５週）
9:30～　研修医からの質問勉強会
　　上級医の指導のもと、レジデントが司会、運営を行います。
10:00～　医局会、抄読会
10:30～　重症症例術後検討会
その他　手術室で働くスタッフのための勉強会（不定期）
　　各種シミュレータを用いた
　　DAMセミナー
　　中心静脈カテーテルセミナー
　　高機能患者シミュレーション（HPS）
　　エコーガイド下神経ブロックセミナー
　　食道心エコーセミナー(すべて院内)
　　産科麻酔シミュレーション（SIMMAN）

Changing Practice of Anesthesia 兵庫医科大学・福井大学・京都府立医科大学・和歌山県立医科大学合同研究会(院内、院外　年１回)
日本麻酔科学会関西地方会（院外）
日本麻酔科学会関西支部症例検討会（院外　年３回）
近畿麻酔シンポジウム(院外)
産科麻酔プロフェッショナルセミナー「産科麻酔に参加しよう」(院外)
KANSAI産科麻酔(院外)

【学会】

レジデントAの時点で日本麻酔科学会に入会すれば、将来認定医及び専門医の取得申請ができます。レジデント以降も継続して麻酔科に勤務する事により、麻酔科専門医の取得が可能です。レジデントAは日本麻酔科学会総会(2015年神戸)、日本臨床麻酔学会学術集会に原則参加します。

レジデントAとBの研修期間中に日本麻酔科学会、日本麻酔科学会関西地方会、日本臨床麻酔学

会、日本ペインクリニック学会、日本集中治療医学会、日本産科麻酔学会いずれかでの学会発表を行います。発表については上級医が指導いたします。
そのほかの学会の年次総会にも積極的な参加・発表を推奨しています。

【論文発表】

麻酔科学領域の邦文または英文雑誌への学術論文を投稿します。レジデント A、B の期間での発表を目標にしています。学会発表と論文発表は専門医取得のための業績として必須です。

【関連病院】卒後３年目以降の臨床研修として派遣実績のある病院です。
宝塚市立病院、明和病院、三田市民病院、兵庫医科大学ささやま医療センター

【指導医】

主任教授：廣瀬　宗孝（麻酔科診療部長、指導責任者）
教　　授：多田羅　恒雄（麻酔科診療副部長）
准 教 授：狩谷　伸享
講　　師：植木　隆介(麻酔科医局長)、岡野　紫、下出　典子(中央手術センター)
助　　教：池田　慈子、日比　喜子、中本　志郎、二木　美由希
棚田　大輔（ペインクリニック）

【研修統括者】

准 教 授：狩谷　伸享

【問い合わせ先】

多田羅　恒雄 ttatara@hyo-med.ac.jp
または
狩谷　伸享 nkariya@hyo-med.ac.jp
TEL: 0798-45-6392